

児童生徒が机上の端末からインターネットを通じて、多種多様な情報を得ることができるようになり、学習における情報収集の方法が変わってきました。目的に応じて効果的な情報が収集できるようになると、更に学びを深めることができるようになります。

(1) 生徒の実態


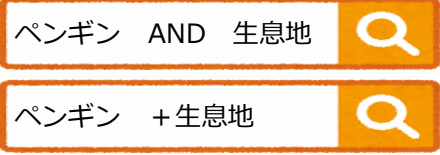

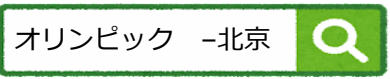
今年度、教育情報化推進室が実施した県立高等学校1年生の生徒（今年度1人1台端末を導入していない学校を除く）を対象としたアンケートで、インターネットを利用した情報の収集に関する質問で、次のような結果が得られました。

インターネットを利用して学習に必要な情報を収集することができますか。（回答：6824人）				
	できる	ややできる	あまりできない	できない
第1回（7月）	58.8%	34.8%	5.4%	1.0%
第2回（12月）	64.0%	30.2%	4.3%	1.4%

端末の活用が進むにつれ、目的に応じた検索ができるようになってきていることがうかがえますが、全体の約35%の生徒（表の青色部分）が何らかの不安を感じているようです。こうした状況に対応するためにも、小・中学校段階でのインターネットを活用した学習経験を通して、一定のスキルを身に付けておくことが重要です。

(2) 検索の方法

文部科学省が示している「[情報活用能力の体系表例](#)」では、小学校高学年を目安とした情報技術に関する技能として、「[電子的な情報の送受信やAND、ORなどの論理演算子を用いた検索](#)」とあります。次の具体例を指導の参考にしてください。

<p><b>キーワード検索</b></p>  <p>検索する言葉はキーワードで入力する。 更に検索結果を絞り込みたいときは、スペースを空けてキーワードを追加していく。</p>	<p><b>AND検索</b></p>  <p>上記のように検索するキーワードを入力する。 左記の「スペースを空けて追加」と類似するが、それぞれの検索結果には違いがある。</p>
<p><b>OR検索</b></p>  <p>上記のように検索すると、「岡山県の観光」と「●●市の観光」2つのどちらかを含むページの検索結果が表示される。2つの情報を比較しながら情報を収集したい時などに使用する。</p>	<p><b>NOT検索</b></p>  <p>上記のように検索すると、「オリンピック」は含むが、「北京」は含まないページの検索結果が表示される。</p>

※これらの検索の方法は、実際に児童生徒が端末を活用して試してみることが大切です。

(3) 参考Webサイト

インターネットを活用した情報の収集については、「NHK for School」等の動画を活用することも有効です。

- ・ [「しまった！～情報活用スキルアップ～とは？」調べるインターネット検索](#)
- ・ [「フライデーモーニング・スクールプラス」インターネット検索で情報を調べよう](#)